2017年11月改訂（第6版　新記載要領に基づく改訂）
2016年7月改訂（第5版）

承認番号 20500BZZ01177000

医療用品（4）整形用品
管理医療機器　粘着性透明創傷被覆・保護材
ＪＭＤＮコード　17428000

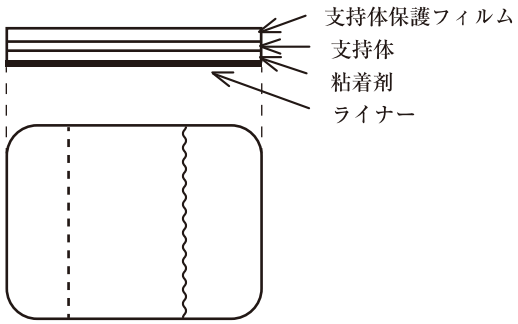
パーミエイド®S
PERME -AID® S

再使用禁止

【警告】
明らかな臨床的創感染を有する患者には慎重に使用すること。
〔感染を悪化するおそれがある。臨床的創感染を有する患者であっても感染に対する薬剤治療や全身・局所管理をしながら創傷被覆材を併用することが有益と医師が判断する場合には、局所の観察を十分に行ない、慎重に使用すること。〕

【禁忌・禁止】
再使用禁止

【形状・構造及び原理等】
1.形状・構造
本品はプラスチック製の柔軟な支持体にアクリル系粘着剤を塗布した粘着フィルムである。本品の支持体は支持体保護フィルムに、粘着剤層はライナーで覆われており、内袋に納められている。
支持体はポリエーテル・ポリアミドブロック共重合体フィルムで、支持体保護フィルムはポリプロピレン製である。
ライナー及び支持体保護フィルムには直線及び波線の切れ目が入っている。



サイズ･包装

製品番号	サイズ	入数／化粧箱
1104	4cm×5cm	100枚
1106	6cm×6.5cm	100枚
1110	10cm×12cm	50枚
1115	15cm×18cm	10枚
1125	25cm×15cm	10枚

2. 機能及び動作原理
創傷部を被覆・保護することにより、滲出液を逃さず湿潤環境を保ちながら、疼痛緩和や外部からの感染防止などの効果を発揮し、上皮再生を促進する。

【使用目的又は効果】
術後創部、分層採皮創、感染していない褥瘡における「創傷面の保護及び感染の防止」、「上皮再生の促進」、「疼痛の抑制」を目的とする。

【使用方法等】
1.サイズの選択
創部周囲の健常皮膚を十分被覆できる大きさのもの（創部の外縁より2,3cm大きめのもの）を選ぶ。

2.貼付前処置
1) 必要ならば、創部を消毒液で消毒する。
2) 創部に消毒液が残らないよう、生理食塩液または精製水で十分に洗浄する。
3) 創部周囲の健常皮膚を滅菌ガーゼなどで注意深く拭き、十分に乾かす。

3.貼付
1) ライナーを切れ目に沿って起こし、ミシン線で折り曲げる。
No.1125：ライナーの切れ目にそって起こし、中央部を取り除く。
2) 両側を持ちながら、皮膚に貼付する。
3) 上から押さえ、皮膚によく密着させる。
4) 残りのライナーを滑らせるようにしてはがす。
5) 支持体を覆っている保護フィルムを切れ目からはがす。

4.除去
周囲の皮膚を軽く押さえながら、端から静かにはがし取る。

5.交換
毎日貼付状況を観察し、滲出液の漏れやドレッシングのはがれが起こりそうなとき、または起こったときには、上記の方法に準じて直ちに新しいパーミエイドSと交換する。滲出液の漏れやドレッシングのはがれがなく、感染も起こしていないと判断される場合でも、１週間に１～２回をめやすに交換すること。

6.シャワー・入浴時
貼付状況をよく観察し、四辺が確実に皮膚に密着していることを確かめ、不十分な場合は新しいパーミエイドSと交換する。

【使用上の注意】
1.重要な基本的注意
1) 本品使用中、創に本品が原因と推察される臨床的感染が起きた場合には使用を中止し、適切な治療を行なう。
また、患者の全身状態の悪化、全身管理の不足等によっても、創に感染症状が現れることがある。感染の兆候に十分注意し、臨床的感染が認められた場合には、原則として使用を中止し、適切な治療を行なうこと。
2) 本品使用中に皮膚障害と思われる症状が現れた場合には、使用を中止し、適切な治療を行なうこと。
3) 創周辺部に粘着剤による発赤や滲出液の貯留による浸軟あるいは皮膚剥離を起こす場合があるので、本品使用時には十分観察を行ない、本品の関与が否定できない異常が見られた場合には直ちに使用を中止し、適切な治療を行なうこと。

M03

2. 不具合・有害事象

一般的な創傷被覆・保護材の使用における「不具合・有害事象」

・創の感染症状
・創傷及び周囲の皮膚障害（表皮剥離、浸軟、浮腫、水疱、発赤、びらん、そう痒、アレルギー、接触性皮膚炎）
・固着
・壊死組織の増加
・疼痛

3. その他の注意

1) 本品は開封後、直ちに使用すること。
2) 本品を再滅菌して使用しないこと。
3) 本品は伸縮性に富んでいるので、伸ばした状態で貼付しないこと。皮膚障害やはがれの原因となる。

【臨床成績】

縫合創・分層採皮創・皮膚欠損創・褥瘡・熱傷を含む症例のうち、やや有用を含め、有用性が認められた症例は約97%に達した。[1)]
成人開心術後症例を対象にした場合にも、約97%の症例で満足以上の結果が得られた。[2)]

【保管方法及び有効期間等】

1.保管方法

室温保存

2.有効期間

3年[自己認証（当社データ）による]
包装の使用期限欄を参照すること。

【主要文献及び文献請求先】

1) 公文啓二：基礎と臨床,27,1025(1993)
2) 田幡雅彦ら：基礎と臨床,27,1669(1993)

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者：日東電工株式会社
TEL 03-6632-2013
販売業者／問合せ先：株式会社ニトムズ
TEL 0120-210-522（文献請求先も同じ）